● 授業科目の内容紹介

国語国文専攻

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学論	**4**		**国**	**1**	**尾崎富義**

Ⅰ　主題

日本文学の研究における民俗学的研究方法の可能性と理解を主題とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.折口学の理解をとおして、古代文学がいかに発生したかについて考える糸口となる。
2.折口学について学び、文学研究の民俗学的研究方法の可能性について考察できる。
3.日本民俗学の知識を利用して、見過ごしがちな日常生活上の信仰や習慣の理解に応用できる。

Ⅲ　授業の概要

主として演習を中心にしながら講義で補足説明をする。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1～ 2 「折口学」の解題	・折口学の特徴、文学の民俗学的方法について
3～ 5 「妣が国へ・常世へ」(常世論1)	・常世観の成立、異郷意識の展開とマレビト。
6～10 「古代生活の研究」(常世論2)	・常世の意義、祖先神の来訪、根の国の観念。
11～15 「若水の話」	・日本古代の霊魂観、沖縄の若返りの水、若水を汲む民俗。
16～20 「最古日本の女性生活の根柢」	・神を祀る女、名と結婚の民俗。忌籠りの民俗。
21～25 「髭籠の話」	・ヒゲゴの意味、よりしろとおぎしろ、カミ迎えの信仰
26～30「水の女」	・聖水を司る女、ウブユとミソギの意義、タナバタツメと天の羽衣。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

『古代研究』Ⅰ　　(中公クラシックス)

Ⅵ　参考書・参考資料

折口信夫事典　　西村亨編　　大修館書店

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
折口用語の理解		○	○	○	
折口学説の理解		○	○	○	
日本古代の信仰と呪術		○	○	○	
文学の民俗学的方法		○	○	○	
沖縄地方の民俗		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各自、事前にテキストを十分に読んでおくこと。『折口信夫事典』等を参考に、折口用語の意味、担当部分の要約等をプリント資料として発表する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

積極的な発言を求める。授業に関係のない私語は慎むこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国語表現論	**2**		**国**	**1**	**中村国男**

Ⅰ 主題

現代における日本語表現の優れた代表的な作家として遠藤周作の随想や小説を鑑賞し、その奥深い魅力を理解する。遠藤周作の作家としてのテーマを一言で言えば「無償の愛の追求」と言えるが、その表現のされ方は、純文学、大衆文学、ユーモラスなエッセイなど、多彩である。それを学ぶことによって、おびただしい種類の器のような豊かな国語表現の世界が確認できる。

Ⅱ 授業の到達目標

1.作品を読んで作家の問題認識に興味関心を持つことができる。(対象への関心の深化)
2.発表する新聞雑誌や、想定される読者に応じた作家の工夫が理解できる。(対象への理解の深化)
3.国語表現の多様さに関する自分の見解を表現できる。(自分の考えを実証する力)

Ⅲ 授業の概要

最初から7回まではプリント資料を用いて随想や初期の芥川賞受賞作品の学習をする。8回目からは購入したテキストを用いて学習するので、各自でテキストを読破しておくこと。その際、作者がストーリーをどのように設定し、登場人物をどのように特徴づけて描写しているかなど、表現の観点に注目して読むこと。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 軽妙な随想	狐狸庵シリーズから、まずは「古今百馬鹿」で入門
2. 真摯な随想	一転して真面目な人生論、恋愛論を読む
3. 東西文化論	東西の歴史や宗教に関する論を読む
4. 「白い人」1	1章
5. 「白い人」2	2章・3章・4章
6. 「白い人」3	5章・6章・7章
7. 「白い人」4	8章・9章
8. 「私が・棄てた・女」1	1章
9. 「私が・棄てた・女」2	2章・3章
10. 「私が・棄てた・女」3	4章・5章
11. 「私が・棄てた・女」4	6章・7章
12. 「私が・棄てた・女」5	8章・9章
13. 「私が・棄てた・女」6	10章・11章
14. 「私が・棄てた・女」7	12章
15. まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

私が・棄てた・女　遠藤周作　講談社文庫　2012
上記以外はプリントを使用する

Ⅵ 参考書・参考資料

授業中に適宜指示する。また、自身で探し出す努力を期待する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40	30		30	
対象への関心の深化	○	○		○	
対象への理解の深化	○	○			
自分の考えを実証する力	○	○			

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

初回に指示した作品をできるだけ早く読破しておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

自分の意見を積極的に言えるようにすること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国語学特論	**4**		**国**	**1**	**久島茂**

Ⅰ　主題
日本語の諸相について、知識を深める。

Ⅱ　授業の到達目標
1.日本語について一般に関心を持たれていることを理解する。
2.日本語について間違いやすい点を理解する。
3.日本語について研究の進んでいる点を理解する。

Ⅲ　授業の概要
日本語の音声、文法、語彙、表記、敬語、言語発達、等の分野について、注意すべき点を取り上げる。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容	項　目	内　容
1. 音声の注意点(1)	乳幼児の音声理解	16. 語彙の注意点(1)	類義語の分析
2. 音声の注意点(2)	日本語の音声の特徴	17. 語彙の注意点(2)	同
3. 音声の注意点(3)	モーラ音の特殊性	18. 語彙の注意点(3)	同
4. 音声の注意点(4)	サ行とタ行とザ行の関係	19. 語彙の注意点(4)	意味変化
5. 音声の注意点(5)	ア行とハ行とパ行の関係	20. 語彙の注意点(5)	幼児の意味理解
6. 音声の注意点(6)	古代の音とは	21. 語彙の注意点(6)	オノマトペ
7. 音声の注意点(7)	中世の音とは	22. 語彙の注意点(7)	同
8. 音声の注意点(8)	音声の変化	23. 表記の注意点(1)	仮名遣い
9. 文法の注意点(1)	助詞の働き「が・は」「に・で」	24. 表記の注意点(2)	長音表記
10. 文法の注意点(2)	助動詞の形、ラ抜き、サ入れ	25. 表記の注意点(3)	古典仮名遣い
11. 文法の注意点(3)	動詞の分類	26. 表記の注意点(4)	漢字制限
12. 文法の注意点(4)	自他の対応	27. 表記の注意点(5)	送り仮名
13. 文法の注意点(5)	シテイル形式の働き	28. 敬語の注意点(1)	分類の改訂
14. 文法の注意点(6)	否定文の意味	29. 敬語の注意点(2)	「伺う」と「参る」の違い
15. 文法の注意点(7)	古典の文法	30. まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等
プリントを配布

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	80			20	
音声の理解	○			○	
文法の理解	○			○	
語彙の理解	○			○	
表記の理解	○			○	
敬語の理解	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
復習をしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
特になし。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国文学演習Ⅰ		〔2〕	国	1	**尾崎富義**

Ⅰ　主題

『万葉集』一巻を読む。ウタとは何か。古代和歌の表現様式、万葉のことばの意味などを学ぶことによって、『万葉集』の理解を深めることを主題とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.『万葉集』を読むことによって、ウタとは何か、古代和歌の表現様式について理解することができる。
2.万葉の歌を理解することによって、奈良時代の人々の生活や信仰まで考察できるようになる。
3.和歌の知識を利用して、平安朝の勅撰和歌集など国文学史の学習に応用できる。

Ⅲ　授業の概要

演習形式で行う。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1～ 4.『万葉集』の解題	『万葉集』の成立・名義・時代区分・編者等 『万葉集』に関する基礎的知識を学習する。
5～ 9.「近江荒都歌」	近江大津宮と壬申の乱、荒都をうたう意味、人麻呂歌の特徴。
10～12.「吉野讃歌」	吉野の歴史と信仰、持統天皇の吉野行幸、山川対比の讃歌。
13～15.「伊勢行幸歌」	伊勢神宮の祭祀と伊勢行幸の背景、留守歌の系譜。
16～18.「阿騎野遊猟歌」	阿騎野の風土、王権と狩猟、コモリの古代的意義。
19～22. 藤原の宮関係歌」	藤原宮の造営と遷都の歴史的背景、宮都讃歌の特徴。
23～24.「紀伊国行幸関係歌」	紀伊国行幸の意味、歌枕について。
25.　「参河国行幸歌」	「引馬野」はどこか、高市黒人の歌の特徴。
26～28.「長皇子の歌」	羈旅歌について、長皇子の歌の特徴。
29～30.「遣唐使関係歌」	遣唐使の歴史、遣唐使歌の特徴。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

『万葉集　全注釈』一（講談社文庫）　中西進　講談社
『万葉集を知る事典』　桜井満監修　東京堂

Ⅵ　参考書・参考資料

『万葉集注釈』(1)　沢瀉久孝
『万葉集全注1』　伊藤博
『万葉集の歌と民俗諸相』　尾崎　富義　おうふう

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
万葉集に関する基礎知識		○	○	○	
万葉時代の歴史と社会		○	○	○	
相聞歌の表現と様式に関する理解		○	○	○	
万葉の歌ことばの理解		○	○	○	
柿本人麻呂作品の理解		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

レポーターは、事前に必ず発表資料を配布する。学生は当日の授業で行うテキスト範囲と発表資料に必ず目を通し、不明の点については、以下に示す参考文献に当たり学習をしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・積極的に発言をすること。
・授業に関係のない私語は慎むこと。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
国文学演習Ⅱ		〔2〕	**国**	**1**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

作品世界が一つの物語として力強く展開されていくあり方を見据えていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.作品に問題意識を持って向かい合うことができる。(対象への関心の深化)
2.先行文献を参照し、注釈等をこなすことができる。(対象の研究方法に習熟)
3.発表後の討論を、進んで展開させることができる。(コミュニケーション力)

Ⅲ　授業の概要

演習科目なので受講者の意欲次第で展開は大きく変わる。原則としては、複数の注釈書を参考にしながら、自分たちなりに源氏物語の注釈・鑑賞をしていくことが柱となる。扱う範囲についても受講者と相談して決めていく。

Ⅳ　授業計画と内容

演習の展開例として、若菜巻を扱った場合に取り上げていくべき項目を掲げる。

項　目	内　容
1- 2.藤裏葉巻の栄華の質	源氏物語第二部へと連なる要素の確認。
3- 4.若菜巻冒頭の敬語と挿入句	物語はいかに新しく始まろうとしているか。
4- 6.朱雀院の婿選びの論理	平安時代の女君たちが置かれた現実。
7- 8.脇役たちの造形	物語世界の近代性と方向性との関わり。
9-10.光源氏にとっての藤壷の血筋	源氏物語の根底を流れる論理の位置づけ。
11-12.女三宮降嫁直後の表現技法	時間を重複させる表現手法の持つ意味。
13-14.紫上の苦悩	光源氏と紫上との紐帯をどう読み解くか。
15-16.光源氏の威力と女三宮	女三宮が六条院世界にもたらす波紋の質。
17-18.光源氏の道心と朱雀院の発心	敗者の論理と対峙する物語世界の検証。
19-20.朧月夜訪問の理由	光源氏の「いろごのみ」を再考する。
21-22.光源氏の四十賀をめぐって	いわゆる内的時間と外的時間をめぐる考察。
23-24.光源氏の栄華と明石一族	光源氏の栄華についての再検討。
25-26.柏木惑乱の端緒と遠因	次世代の貴公子たちを描くことの本質。
27-28.源氏物語にとっての光源氏	源氏物語における主人公の存在意義。
29-30.源氏物語の行方	源氏物語第三部を胚胎していく論理の追跡。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

源氏物語(全)　　今泉忠義他編　　おうふう

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	レポート	成果発表・作品	授業態度	その他(　　)
配点比率(%)　合計 100		30	30	40	
対象への関心の深化		○	○	○	
対象の研究方法に習熟		○	○		
コミュニケーション力			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

なるべく早い時期に源氏物語を通読しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

発言が皆無であるなど、授業態度に積極性が認められない者は、欠席扱いとする。成果発表として、年度末にレポートを課す。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国文学演習Ⅲ		〔2〕	**国**	**1**	**大川信子**

Ⅰ 主題

井原西鶴、近松門左衛門の作品を通して、近世文学の特性について学ぶ。庶民文学の時代といわれる江戸時代前期に多くの作品を残した二人の文学の共通基盤やジャンルによる相違点を知ることで、時代とのかかわりのなかで生み出される文学の本質に迫る。

Ⅱ 授業の到達目標

1.時代と文学との関わりを理解し、文学の存在意義について考えることができるようになる。
2.先行文学の影響を理解し、文学の展開について考えることができるようになる。
3.版本を読むことを通して、文字理解を深めることができるようになる。

Ⅲ 授業の概要

作品理解の前段階として、時代と作家について学ぶ。近世文学の基盤にある誹諧について学び、ついで版本・台本を読む作業を通して近世文学を代表する二人の作品を熟読していく。演習内容としては、翻字ならびに作品読解に関する課題

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 授業ガイダンス-変体仮名入門-	16.近松門左衛門入門
2.『西鶴諸国はなし』序文判読	17.人形浄瑠璃の構造
3. 近世文学の背景-政治・経済を知る-	18.人形浄瑠璃の語り
4. 近世文学の担い手-庶民生活と文化-	19. 人形浄瑠璃の担い手たちを知る
5. 俳諧の歴史	20.『曽根崎心中』概要　Ⅰ
6. 俳諧と西鶴・近松	21.近松作品の修辞-先行文芸からの影響
7.『西鶴諸国はなし』巻一　翻字演習	22.近松作品の修辞-表現の多様性
8.「大晦日はあはぬ算用」読解演習	23. 24　古典芸能鑑賞を通し文楽と歌舞伎の特性を知る
9. 研究論文を読む-成立をめぐる問題-	(劇場にて芸能鑑賞　費用自己負担)　Ⅰ
10.『西鶴諸国はなし』巻三　翻字発表	25.生玉神社の段　前半読解　発表
11.「水筋のぬけ道」読解発表	26. 生玉神社の段　後半読解　発表
12.「水筋のぬけ道」-作品の背景を知る-	27.天満屋の段　前半読解　発表
13.『西鶴諸国はなし』巻五　翻字発表	28.天満屋の段　演劇的表現考察　発表
14.「提灯に朝顔」読解発表	29.作品鑑賞をとして近松演劇論を考察
15.「提灯に朝顔」-作品の背景を知る	30.近世文学の特性　まとめ　発表
	試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等

角川ソフィア文庫『曽根崎心中・冥途の飛脚・心中天の網島』　近松門左衛門／諏訪春雄訳注　角川書店
仮名変体集　伊地知鉄男　新典社

Ⅵ 参考書・参考資料

和歌文学辞典　有吉保編　桜楓社
新編日本古典文学全集『近松門左衛門集(2)』　鳥越文蔵　小学館
新編全集『井原西鶴集(2)』　宗政五十緒　小学館

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40	15	40		
時代と作品の関係性	10	5			
近世文学の背景理解	10	5	○		
作品読解	20	5	20	○	
版本翻字			20	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。演習の発表のための資料作成、事前準備。授業レポートのまとめ。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：欠席・遅刻・懈怠は、成績の漸減を生じるので注意すること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
言語学演習		〔2〕	**国**	**1**	**澤崎宏一**

Ⅰ　主題

この授業では、日本語と他の言語との関係を学ぶ。また、日常生活ではあまり意識することのない日本語のしくみについても学習する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.1.　世界の言語と日本語がどのような関係にあるかがわかるようになる。
2.2.　日本語の文法やしくみについて、問題点を把握できるようになる。
3.3.　日本語を含めたことばのしくみについて、ある程度客観的な見方ができるようになる。

Ⅲ　授業の概要

講義形式ではなく対話型の授業である。様々な資料から、日本語の姿を見つめることを目指す。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1.　授業ガイダンス	マクロ・ミクロ的視点についての話
2-5.　日本語と世界の言語	語族の視点から見た日本語の系統
6-8.　日本の中の言語	アイヌ語や日本語の方言について
9-10.　日本と世界の文字	漢字文化圏の文字の発達と非漢字文字
11-12.　日本の言語政策	ローマ字化運動、当用・常用漢字など
13-15.　世界の日本語教育	日本語教育の諸問題や第二言語習得論
16-18.　日本語の母音と子音	日本語の母音と子音の特徴、連濁
19-21.　日本語の韻律	モーラ、音節、アクセントなど
22-23.　日本語の動詞の種類	ル動詞・ウ動詞、自他動詞
24-26.　日本語の様々な構文	受け身文、使役文、受益構文など
27-28.　日本語の主語と主題	「は」と「が」と「の」の話
29-30.　日本語の敬意表現	敬語の種類と使い方、ら抜き言葉など

Ⅴ　使用テキスト・教材等

ハンドアウト、視聴覚教材を必要に応じて使用する

Ⅵ　参考書・参考資料

やさしい日本語のしくみ　庵功雄・日高水穂・前田直子・山田俊弘・大和シゲミ　くろしお出版　2003

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	期末試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	30	30		40	
約 2 単元に 1 度の確認テスト		○		○	
日本語の系統やしくみの総合理解	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

年間 6 回前後、それまでの授業の確認テストを行うので、学習事項の復習を欠かさないこと。
予習事項が指定されている場合は、授業中に配られるハンドアウトに目を通しておくこと。
参考書は，購入してもしなくても構わない。読んでおくと，授業理解の助けになる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業を聞くだけでなく、教師からの問いかけに対して積極的に発言することが望まれる。
前期に約 3 回，後期に約 3 回のクイズ（小テスト）を行う。クイズの日取りは，授業の進捗に合わせて決められるので，欠席を重ねないように注意すること。詳細は授業の中でアナウンスする。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
漢文学講読		**4**	**国**	**1**	**繁原央**

Ⅰ 主題

中国の古典であり、日本の文化の基礎となった漢文を読むことで、読解力をつけるとともに、中国と日本の文化の違いを理解し、考察できるようになること。

Ⅱ 授業の到達目標

1.漢文の文章が読めるようになること
2.『蒙求』の読解だけでなく、出典となった漢籍の理解ができること
3.人物逸話を読解することで、中国文化の考察ができること

Ⅲ 授業の概要

戦前までは漢文学習の最初に学んだ『蒙求』を読む。江戸時代の版本を使い、その訓読に従って読み、読解する。訓読の仕方になれることを第一の目標とするが、中国古典の時代背景も理解しなくてはならない。そのうえで、中国古典の人物逸話の理解と意味について考察してもらいたい。中にはそのエピソードから故事成語が生まれたり(蛍雪の功)、エピソードを利用して名としたり(漱石)したものもある。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1、オリエンテーション	『蒙求』の基礎知識について。題と作者など。
2～3、「薦蒙求表」	李良の上表文を読む。訓読の仕方について。
4～5、「李華序」	盛唐の文士・李華の序文を読む。誤植のこと。
6～8、「子光序」	宋代の徐子光の序を読む。補注の作者のこと。
9～11、「蒙求箋註例引」	箋註をした江戸時代の岡白駒の意見を読む。
12～14、「蒙求標疎例言」	校本を作った佐々木向陽の意図を知る。
15、320頁。「費長房縮地」	費長房説話から読む。前期のレポート。
16～18、「季珪士首　安国国器」	一話ずつ読解していく。
19～20、「陸玩無人　賈詡非次」	晋書と三国志が出典。
21～22、「何晏神伏　郭奕心酔」	三国志と晋書。
23～24、「常林帯経　高鳳漂麦」	三国志と後漢書。
25～26、「孟嘉落帽　庾凱墮幘」	晋書から。
27～28、「龍逢板出　張華台坼」	論語と晋書
29～30、「董奉活燹　扁鵲起虢」	神仙傳と史記。後期のレポート

Ⅴ 使用テキスト・教材等

必要に応じて資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

蒙求(新釈漢文大系)上・下	早川光三郎	明治書院	1973
蒙求(鑑賞中国の古典15)	今鷹　真	角川書店	1989
箋註蒙求校本	李翰	中文出版社	

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	レポート	授業態度	小テスト		
配点比率(%)　合計 100%	50	30	20		
漢文の読解		○	○		
古典文化の理解	○		○		
人物逸話の考察	○				

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

予習が重要。本文をノートに書き写し、書き下し文と訳文を書いて授業に臨むこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

テキストは絶版なのでプリントを用意する。江戸時代の版本は訓読してあるが、読み慣れていってほしい。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
情報文化論		**4**	**国**	**1**	**平井修成**

Ⅰ　主題

「情報文化」についての、歴史、現状を理解し、これを利用する力を養う。

Ⅱ　授業の到達目標

1.人間と「情報」との関わりについて、歴史的な知識を持つ。
2.現代社会に於いて、「情報」が社会や文化に占める意味を理解する。
3.情報を主体的に利用し、発信する能力を涵養する。

Ⅲ　授業の概要

この授業では、ネット上に専用のブログを用意し、教員の提供する資料と、履修者のコメントとを組み合わせつつ、理解の徹底と考察の深化を計りたい。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1・ 2. 情報とは何か①	情報が価値を持つために
3・ 4. 情報とは何か②	情報の価値を担った人々
5・ 6. 情報を操作する①	隠される情報と強調される情報
7・ 8. 情報を操作する②	好まれる情報と嫌われる情報
9・10. 情報を操作する③	嘘を吐かずに偽る方法
11・12. 社会と情報①	情報の尊重－古今伝授の世界
13・14. 社会と情報②	情報の開放－百科全書の世界
15・16　情報化社会の条件①	工業製品としての紙
17・18　情報化社会の条件②	教育の普及
19・20　情報化社会の条件③	遊ぶ人々
21・22　情報化社会の功罪①	マスメディアとは何か
23・24　情報化社会の功罪②	インターネットは弱者のメディア
25・26　実践してみよう①	情報を効果的に発信する
27・28　実践してみよう②	情報操作を見抜く
29・30　addition	Windows の彼方に－Puppy Linux 入門

Ⅴ　使用テキスト・教材等

プリントや電子データを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（ ）
配点比率(%)　合計 100	40	20	20	20	
歴史的知識の獲得	○				
現状の理解	○	○	○	○	
利用・発信力の獲得		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞、その他のニュースに常に注目していること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

知的な興味を持って、楽しんで欲しい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
静岡の文化		**2**	**国**	**1**	**繁原幸子**

Ⅰ 主題

静岡県はそれぞれの地域で様々な文化が伝承され、その地域を特徴付けている。これらの事例を他地域の文化と比較しながら民俗学的考察で読みとくことを学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標

1.静岡各地の民俗文化に対する知識が深まる.
2.様々な民俗文化を知ることで、静岡の文化に対しての理解が深まる。
3.静岡の民俗文化が現在どう生かされているか考察できるようになる。

Ⅲ 授業の概要

フイールドワークによる具体例のパワーポイントやビデオやDVDあるいは実物を見て静岡の文化に対する理解を深める。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.オリエンテーション	授業展開と民俗文化の概説
2.津波などの災害と民俗	静岡の災害がどう伝承されたか考察する。
3.静岡の衣服	衣服の呪術性を考える。
4.山間地の雑穀文化	焼畑文化と雑穀の今昔を考察する。
5.山間地の狩猟文化	今静岡の山間地で何が起きているかを学ぶ。
6.海の文化(1)	漁師の生活や信仰の今昔を考察する。
7.海の文化(2)	漁師町の食生活・衣生活を知る。
8.静岡の年中行事(1)	年中行事の意味とその成り立ちを知る。
9.静岡の年中行事(2)	静岡と他地域の年中行事を比較する。
10.静岡の年中行事(3)	年中行事の変容と新しく加わった年中行事を考察する。
11.静岡の人生儀礼(1)	結婚と出産・育児の今昔を考察する。
12.静岡の人生儀礼(2)	年祝いと葬式の今昔を考察する。
13.祭り文化(1)	伝統の祭りの変容と問題を考える。
14.祭り文化(2)	各地の祭りと静岡の祭りを比較する。
15.まとめ	今までの授業から静岡の文化を考察する。
定期試験	筆記試験(論述式)

Ⅴ 使用テキスト・教材等

特に定めない。その都度教材プリントを配布する。

Ⅵ 参考書・参考資料

授業時紹介

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他 ( )
配点比率(%) 合計 100				20	
静岡の文化に対する基礎知識	○	○		○	
静岡の文化に対する関心の深化	○	○		○	
静岡の文化に対する考察力	○	○			

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞記事をよく読むこと。常に静岡の文化に関心を持ち、注目しておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

日常生活に近い事例もあるので、発言など積極的な参加を求める。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本民俗文化論		**4**	**国**	**2**	**吉川祐子**

Ⅰ　主題

日本の民俗文化の本質をとらえ、日本人を知る。

Ⅱ　授業の到達目標

1.日本の民俗文化の本質がとらえられるようになる。
2.学んだ民俗文化と日常生活を比較して考察できるようになる。
3.学んだ知識を日常生活に活かせるようになる。

Ⅲ　授業の概要

テキストや映像資料から、日本の民俗文化の本質がどこにあるのかを考察する。
前期はテキストを中心に進める。また、フィールドに出て瀬名の歴史民俗の観察をする。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1 オリエンテーション	年間授業計画、「民俗文化」の定義、年間個人目標の決定
2 柳田國男と日本民俗学	日本民俗学の父といわれた柳田の理想と現実を知る。
3 口承文芸という領域	言葉による伝承が一定の文化を作り人を育てる。語ることの大切さを知る。
4-5. 語りには癒しがある	対人関係の難しさを語りの力で回避する方法を知る。
6 妻と夫、嫁と姑の立場	語りの中からそれぞれの立場を読み取る。
7-8. フィールド調査と発表	瀬名地内を歩いて民俗に触れ、レポートにまとめる。
9 子の立場・親の立場を考える	語りのテキストから学び、自分自身と対比させる。
10 ジェンダーへの目配り	社会で直面するのはジェンダー問題、厳しく見つめる力を付ける。
11 男女差別の根源	男女差別は男女区別でもあることを知る。
12-13 盆行事と先祖供養	遠州に残る盆行事を知り、その背景の農耕文化を考える。
14 祇園祭の歴史と民俗	全国の祇園祭りの本家である京の祇園行事を学ぶ。
15 伊勢神宮と民俗	伊勢神宮の遷宮に関与する人びとの民俗を知る。
16 レポート発表と討論	前期レポート「家の盆、わたしの盆」の発表をする。
17 火の役割と民俗	日本民俗にとっての「火」とは何かを学ぶ。
18 富士山とかぐや姫	かぐや姫物語の発生と富士山信仰を考える。
19 富士山と水	富士火山の成り立ちから水の恵みまでを知る。
20 七五三の歴史と意義	子どもの成長儀礼と子育て文化の基本を知る。
21 京文化と舞妓	舞妓の歴史から京文化を探る
22 紀伊山地の霊場と信仰	修験道と女性信仰について学び、日本の古層信仰を考える。
23 修験道という文化	山に登る宗教者の文化を知る。
24-25 正月行事	正月行事の内容とその意義を考える。
26 歌舞伎の発生	民俗芸能史を「踊り」からとらえる。
27 レポート発表と討論	後期レポート「家の正月、私の正月」の発表をする。
28 秦氏と徐福	徐福伝承から、中国と日本の歴史と民俗を考える。
29 安倍晴明と庶民信仰	安倍晴明の実像を知り、様々な民俗文化との関わりを知る。
30 万歳から漫才へ	民俗芸能史を「漫才」からとらえる。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

昔話から“昔っこ”へ　吉川祐子　岩田書院　2005

Ⅵ　参考書・参考資料

新民俗学を学ぶ　現代を知るために　八木透　昭和堂　2013

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%		20	50	30	
日本の民俗文化の本質をとらえる		○	○	○	
民俗文化と日常生活の比較		○	○	○	
日常生活に活かす		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

ニュース、新聞報道（特に文化報道）に気を配る。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：授業に関係のない私語は慎むこと。
たとえ辞書使用であっても、携帯電話等の授業時間使用は禁止する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
児童文学論		**4**	**国**	**1**	**小野田貴夫**

Ⅰ 主題

子どもの視点から、児童文学とは何かを考察し理解する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.児童文学に特徴的な表現を理解する
2.明治以降の児童文学史の基本的な流れを概説できるようになる
3.子供の認識能力に応じた作品の選択ができるようになる

Ⅲ 授業の概要

児童文学について、諸作品の文学史における位置づけを概観しながら、児童文学が作家や編集者また読者にとってどのように理解され扱われたのか理解する。さらに発達心理学的な観点から子どもにとって児童文学とはどのように認識されるものか、実際の表現を対象としながら考察していく。以上から、児童文学を提供する側の認識と、実際の子どもにとっての認識との差異や共通性を理解していく。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1～ 2. 児童文学らしさとは	
3～ 4. 作家と作品の概説「あまんきみこ」	(1)名前を見てちょうだい(表現分析)
5～ 6. 作家と作品の概説「あまんきみこ」	(2)きつねのおきゃくさま(表現分析)
7～ 8. 作家と作品の概説「新美南吉」	(1)手袋を買いに(表現分析)
9～10. 作家と作品の概説「新美南吉」	(2)ごん狐(表現分析)
11～12. 作家と作品の概説「宮澤賢治」	(1)ガドルフの百合(表現分析)
13～14. 作家と作品の概説「宮澤賢治」	(2)銀河鉄道の夜(表現分析)
15～16. 作家と作品の概説「芥川龍之介」	(1)蜘蛛の糸(表現分析)
17～18. 作家と作品の概説「芥川龍之介」	(2)杜子春(表現分析)
19～20. 子どもの世界観(認知の様式)	映像的な表現／概念的な表現
21～22. 子どもの言語・言語表現	児童文学の固有性
23～24. 反復、擬音語・擬態語、造語について	場面のリアリティーについて
25～26. 物語の表出と子どものための物語	時間表現と物語の複雑さ
27～28. 子どもにとってのリアリティー(概説)	読み聞かせること／自立的に読むこと
29～30. まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

超入門!現代文学理論講座（ちくまプリマー新書） 蓼沼 正美（著），亀井 秀雄（監修） 筑摩書房 2015

Ⅵ 参考書・参考資料

幼児心理学への招待[改訂版] 内田 伸子 （著） サイエンス社 2008
はじめて学ぶ日本児童文学史（シリーズ・日本の文学史） 鳥越 信（著） ミネルヴァ書房 2001

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験	小レポート	成果発表・作品	授業態度	
配点比率(%) 合計 100	60	30		10	
児童文学に特徴的な表現の理解	○			○	
児童文学史の基本的な理解	○			○	
子供の認識能力に応じた作品の選択力		○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国語科教育研究		**4**	**国**	**1**	**大塚浩**

Ⅰ　主題

この授業では、中等学校教育における国語科の授業を行うには、どのような理論研究が必要となるのか、また、どのような指導法が必要となるのかについて考察する。（中学校国語一種免許・必修科目）

Ⅱ　授業の到達目標

1.国語科教育学の構造を理解し、「国語科」の指導が出来るようになる。
2.国語教科書の構成について学び、国語教材の研究・考察ができる。
3.さらに、国語教材研究の知識を利用して、国語授業研究へと応用できるようになる。

Ⅲ　授業の概要

この授業は、国語科教育研究について理論と実践の両面から考究する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1- 2. 言語とは	イントロダクション＋言語について
3- 4. 国語教育学の構造	国語教育学の構造について
5- 6. 言語指導	国語科における言語指導について
7- 8. 国語教科書教材論Ⅰ	国語教科書教材の基礎論について
9-10. 作家作品論Ⅰ	作家作品論について
11-12. 国語教材研究論Ⅰ	国語教材研究の基礎について
13-14. 国語科教育実践論Ⅰ	国語科教育実践論について
15-16. 国語科教育指導論Ⅰ	国語科教育指導論について
17-18. 国語教科書教材論Ⅱ	国語教科書教材論・第Ⅱ段階
19-20. 作家作品論Ⅱ	作家作品論・第2段階
21-22. 国語教材研究論Ⅱ	国語教材研究論・第Ⅱ段階
23-24. 国語科教育実践論Ⅱ	国語科教育実践論・第Ⅱ段階
25-26. 国語科教育指導論Ⅱ	国語科教育指導論・第Ⅱ段階
27-28. 国語科教育授業論Ⅰ	国語科教育授業論について
29-30. 国語科教育授業論Ⅱ	国語科教育授業論・第Ⅱ段階
31.　　試験	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

講義において、適宜指示する。

Ⅵ　参考書・参考資料

講義において、適宜指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	15	15	20	
国語科教育学の構造の理解	○			○	
国語教材の研究及び実践、発表	○	○	○	○	
国語科の実践授業、授業研究への応用	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

講義で使用する文学作品を、事前に読んでおくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業に関係のない私語は絶対にしないこと、従わない場合には退席を命じる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**中村国男**

Ⅰ　主題
各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力ある答えを発見していく。

Ⅱ　授業の到達目標
1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。（文学への関心の深化）
2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。（文学研究の方法に習熟）
3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。（文章の論理的構成力）

Ⅲ　授業の概要
4 月末に本題目を決定。前期末に論文の構成・あらすじを確定する。夏休み中に論文を作成する。枚数は四百字詰め原稿用紙換算で 30 枚以上。9 月上旬に提出。口頭試問を実施する。一斉授業は行わず、原則として自力で問題を解決していくこととし、進行の節目に合わせて面接指導を行う。さらに各自の感じた課題に応じて適宜個人指導を実施する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1.研究テーマの決定	1 年次に決めたものを再確認
2.題目の決定	正式の文言として確定する
3～ 6.論文の構成・あらすじの確定	仮説、目次、要旨を作成
7～15.下書き作成	実践　適宜面接指導を実施
16～17.論文提出	目次を付け、装丁を確認
18.口頭試問	不十分であった点をチェック
19～30.修了論文発表会へ	学位授与へ向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等
各自のテーマに応じて用意すること

Ⅵ　参考書・参考資料
必要に応じ指示する

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100			80	20	
文学への関心の深化			○	○	
文学研究の方法に習熟			○		
文章の論理的構成力			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
教員との相談を密にすること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力のある答えを発見していく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。（対象への関心の深化）
2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。（対象の研究方法に習熟）
3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。（自分の考えを実証する力）

Ⅲ　授業の概要

原則として自力で問題を解決していくわけだが、指導は、その進行の節目にあわせて、次の三つを基本に据える。すなわち、テーマ決定前の作品読解の程度のチェック、先行論文など当該テーマに関する研究史把握のサポート、および論文提出後の口頭試問である。中でも口頭試問は緊張感を持って臨み、積極的に批判を受け、これに対する答えを探すことで自説に磨きをかけ、修了論文発表会へとつなげてほしいと思う。

Ⅳ　授業計画と内容

目安として期待される進行状況を以下に示す。なお、1～3 については、既に一年次から取り組んでいることを前提とする。

項　目	内　容
1. 扱う作品の決定・再読	自分が関心を持てる作品を見つけ、読み直す。
2. テーマの決定	どのように論じていくのか言葉にする。
3. 研究史の把握	テーマに関して既に論じられていることを学ぶ。
4- 7. 自分の考え方の長所	自分が新たに言えることは何かを見定める。
8-15.　下書きと推敲	説得力を持たせるための試行錯誤。
16-17. 論文提出	自分の論文をしっかり把握し、要約を付ける。
18. 口頭試問	不十分であった点をチェックする。
19-30. 修了論文発表会へ	学位授与へ向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して用意すること。

Ⅵ　参考書・参考資料

新編日本古典文学全集	小学館
新日本古典文学大系	岩波書店
新潮日本古典文学集成	新潮社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		20	50	30	
対象への関心の深化			○	○	
対象の研究方法に習熟		○	○	○	
自分の考えを実証する力			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

論文の出来が不本意だった場合は、提出後の面接で補うこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**小野田貴夫**

Ⅰ 主題
専攻科における学修の成果を論文にまとめる。

Ⅱ 授業の到達目標
1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

Ⅲ 授業の概要
言語学、社会言語学、日本語学、こどもの文学、宮澤賢治等に関するテーマを扱い、テーマの設定から論文の完成までの手順を解説、指導する。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1－ 2. 卒業論文の見直し	不足の確認と改善の方法
3－ 4.「はじめに(テーマの設定)」	関心と先行研究との関係について
5－ 6.「調査方法・結果と考察・まとめ」	論文作成の具体的な手順について
7－ 8. テーマの設定	問題設定の可能性について
9－10. 主題・問題設定とは	先行研究を踏まえた問題の立て方
11－12. 先行研究との関係	先行研究の調べ方、載せ方
13－14. 調査方法	様々な調べ方・手段について
15－16. 文献調査について	文献、論文の検索／文献による調査
17－18. インタビュー調査、質問紙調査	面接の方法／質問紙の作成方法
19－20. 結果と考察	事実の扱い方と関連付け
21－22. 事実の関連付け(体系化)	事実のまとめかた・示し方
23－24. 分析方法	印象と客観的な根拠の示し方(分析)
25－26. まとめ(論文の完成)	全体的な構成と確認
27－28. 校正と製本	製本する
29－30. 口頭発表	論文の内容を要約し、発表する

Ⅴ 使用テキスト・教材等
資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法／学習項目	試験	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		15	75	10	
テーマが設定できる		○		○	
自身の研究作業及び進捗状況を解説できる		○		○	
論文が作成できる			○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）